



ロータリーは 分かちあいの心

2007～2008年度
国際ロータリーのテーマ
ウィルフリッドJ.ウィルキンソン

会長／関野政人 幹事／山本讓二

DISTRICT 2510 JAPAN

留萌ロータリークラブ 会報

2007▶2008 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

みんなロータリーが好きだから
出会いを創造し活性しよう

プログラム

- 本日
「最終夜間例会」 親睦活動委員会
- 次週予定
「会長・幹事抱負」

No. 2332

第47回 6月25日



前例会

会員総数……………47名
出免会員……………3名
欠席会員……………15名
出席率……………65.91%

前々例会

第44回 6月4日
欠席会員……………12名
メイクアップ……………4名
修正出席率……………81.82%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

📝 会長報告 ……………

- 昨日行われた留萌みなとライオンズクラブチャーターナイトに齋藤会長エレクトに出席していただきました。
- 今日は本年度最後の通常例会です。この演台に立つのも今日が最後です。来週は所を変えて最終夜間例会となります。一年間誠にありがとうございました。

📝 幹事報告 ……………

- 1) 芦別RCより創立50周年記念式典の礼状が届いております。
- 2) 15日に行われた、自衛隊留萌駐屯地55周年の記念式典に出席して参りました。

📝 ビジター

国際ロータリー第2510地区第1グループ
次年度ガバナー補佐 大西 道祥様
補佐室長 大西 翔太様

📝 3分間情報 ……………

会員研修委員会 河部副委員長
「ロータリークラブ定款とCLPの矛盾」

1998年の規定審議会において、奉仕活動の実践がクラブ例会のメイクアップとして認められるように定款が変更になった際、ついに来べき日が来たと感じたのは私だけではないと思います。何故ならば例会は純粹親睦を図りながら奉仕理念を研鑽する場所であり、奉仕活動の実践は例会場を出た後に、職場や地域社会や国際社会などのCommunityの場で行うものだと

考えられてきたからです。奉仕理念の研鑽の場を経てこそ、奉仕活動の実践の場が与えられるのであって、実践が研鑽の代替になる道理はありません。この決定の後には、「例会でご飯を食べながら無駄な時間を費やすより、額に汗してボランティア活動をする方が価値がある」という風潮が全世界的に高まって、徐々に例会が形骸化して現在に至ったような気がします。

それから数年後、2004年に当時のグレン・エステスR I会長エレクトの「世界最大のNGOであるロータリー」という発言を聴いた際、私はまさしく国際ロータリーの終焉が間近いことを感じました。いつロータリーは奉仕理念の研鑽や職業奉仕の実践を捨てて、ボランティア組織に移行したのでしょうか。

過去の規定審議会においてNGOに衣替えるような議案は一切提案された記録はありません。規定審議会における審議を経ずに、ロータリーの哲学である奉仕理念をR Iが勝手に変更することを許すわけにはいきません。

ロータリー活動は単なる理念の提唱に止まらず、奉仕活動の実践が伴わなければならないことは決議23-34に明記されています。しかし、人道的な奉仕活動に専念するために、奉仕理念の研鑽や職業奉仕活動の実践を放棄してもよいという理由は通りません。

ロータリークラブをNGO組織だと定義して、その目的を人道的なボランティア活動だと考えれば、会員数が激減したクラブには存在価値はありません。ボランティア組織ならば、何よりもマンパワーが優先しますから、会員数が10名や20名のクラブでは、積極的なボランティア活動を期待することは不可能だからです。こういった弱小クラブでも何とかボランティア組織として自立させていくための最小限度の管理組織を想定したものが、R Iが提唱したCLPなのです。言い換えれば、CLPとは「機能を喪失しているクラブ」乃至は「機能を喪失しかかっているクラブ」が、「人道的奉仕活動をするボランティア組織」として生き長らえるためのプラ

ンだとも言えます。

クラブの委員会構成はクラブがその自治権に基づいて独自に定めるものであって、R Iや地区ガバナーが強制すべきものではありません。CLPはR I定款・細則、クラブ定款で定めた規約ではなく、単にR I理事会が決定してクラブに推奨している計画に過ぎないので、推奨クラブ細則に記載されているとしてもそれを採択するか否かはクラブが独自に判断すべきものです。

しかし、日本ではお上のお達しは守らなければならないと考える人が多いらしく、マンパワーに恵まれている大型のクラブまでもが、従来の四大奉仕の委員会構成を捨てて、R I推奨の委員会構成を採用している例をしばしば見受けられます。不必要な委員会を廃止してクラブ組織の合理化を図るために統廃合するのならばともかく、ロータリー活動の中核である職業奉仕部門を廃止する理由が理解できません。

さらに残念なことには34地区のうち13地区までもが、地区委員会構成にCLPを取り入れて、職業奉仕委員会と社会奉仕委員会と国際奉仕委員会を廃止して奉仕プロジェクト委員会に一本化しています。小規模クラブがCLPに基づいた委員会構成を採用することは致し方ないとしても、地区がCLPに基づいた委員会構成を採用して、職業奉仕や社会奉仕の部門を廃止することは、理解に苦しむ現象と言わざるを得ません。

CLPの構想は、R I事務局主導で進められてきた感があります。この四大奉仕の原則を無視した委員会構成の考え方に、R I理事の中からも異論が出ていることは、国際大会においても国際協議会においても、R I会長やR I理事からCLPに関するコメントが一切なかったことや、2005年にCLPに関する各種のドキュメントをまとめた「クラブ・リーダーシップ・プラン」の小冊子が発行され、2006年に「効果的なクラブとなるための活動計画の指針」が発行された以降は、現在に至るまでR Iからは何ら

の新しい資料は発行されていませんし、CLPに関する新しいコメントも出されていないことから、RI理事会内部でも、これを進めようとするグループとこれに消極的なグループ間の意見の不一致があることを伺わせます。

四大奉仕を無視したCLPに基づく委員会構成に反対するRI理事のグループが、標準ロータリークラブ定款において改めて四大奉仕を位置づける提案を、2007年規定審議会に提案し、これが採択されたことから、今後は再び従来の四大奉仕を尊重した委員会構成に復帰する流れが強まるものと思われます。この運動の中心になったのはビチャイ・ラタクル元会長や日本の理事であったことを申し添えます。

私たちが守らなければならないロータリーの規約にクラブ定款とクラブ細則があります。クラブ定款はロータリークラブに関する基本的なルール、目的を定めたものであり、規定審議会に於いて制定または変更することができますが、クラブが勝手に制定したり変更することはできません。これに対してクラブ細則は、クラブの管理運営を円滑にするための具体的な規約であり、クラブが独自に制定変更することができます。推奨ロータリークラブ細則は、RIがサンプルとして提示したものに過ぎなく、国際ロータリー定款や国際ロータリー細則や標準ロータリークラブ定款に背馳しない範囲内で、クラブ・レベルで独自に制定したり変更することができます。すなわちクラブ細則は、クラブ自治権の範疇でクラブが自らのクラブの現状に合わせて、自由に制定するものなのです。

標準ロータリークラブ定款で新たに四大奉仕が定義されたことから、やっとCLPに基づく委員会構成に疑問を抱き始めたロータリアンが増えてきたようです。

CLPは推奨クラブ細則の規約に過ぎません。すなわちそれに従うのも従わないのもクラブの自由です。またその名の通りクラブ細則ですから、地区には何らの影響を及ぼしません。これ

に対して四大奉仕の原則はクラブ定款で定められたものですから当然のことながら遵守義務があります。定款で定められた四大奉仕に基づく委員会構成を採用すべきか、CLPに基づく委員会構成を採用すべきか、いまさら議論の余地はないのではないのでしょうか。

(「ロータリーの源流」から)



ニコニコBOX.....

・次年度よろしくお願いします

大西次年度ガバナー補佐

・1年間ご協力ありがとうございました

関野会長

・いよいよ喜寿の境を超えました

平井会員

・元気になりました

吉田会員

・みなとライオンズクラブチャーターナイトに出席して参りました

齋藤会員

・ロータリーゴルフ大会連続優勝

大嶋会員

・笠原会報委員長さんからDVDをいただきました

田中会員

前回 1,148,500円

今回 37,500円

累計 1,186,000円



プログラム.....

「一年間を振り返って」

関野会長

～みんなロータリーが好きだから

出会いを創造し活性しよう～

「退任するとき、私自身がどんなロータリアンになっているのか、自分が一番期待しています。」

一年前、会長に就任する時の言葉です。

いまここに退任の時を向かえ、私はそんなことを言ったのをすっかり忘れていました。今考えると、クラブ会長という重責が言わせた言葉なのか、はたまた舞い上がっただけなのか、今にして思えば誠に恥ずかしい限りです。

一年前の自分が今ここに何も変わらず会長退任を迎えております。しかし、私にとって人生

第46回 6月18日(水) 天候/晴

の一部がロータリーと共にあり、その一時期が会長として貴重な経験をさせて戴きました。そして、この一時の貴重な期間に私自身のロータリアンとしての成果(素性)を発表させていただいたことは、心の奥は多少なりとも豊かになったことは確信をもって感じています。さまざまなロータリアンがいるだけ、それぞれの生き方があり、奉仕の形もそれぞれです。

人は心豊かになれば他人のことを思いやる余裕も生まれるし、心豊かになれば奉仕の理想が見えてくるのかもしれませんが。時が経つと肩の力が抜け、今になってやっと回りが見えてきました。

「Rotary Shares」～ロータリーは分かちあいの心～ 本年度R I 会長テーマです。

より良い世界を築こうという決意を、皆で発展させ、その喜びを分かち合おうという、ロータリーの基本的ながら寛大なテーマをR I 会長は選びました。

分かちあいと言うと、大勢による偉業を連想しがちですが、同じ様に地元で地域の発展に、ロータリーとの関わりを積極的に進め、奉仕の心を分かちあうことも推奨しています。ロータリーの世界的な活動も、同時に個人による行為であり、個人的な選択でもあります。その決意は、私たち一人ひとりがどれだけ地域社会と分かちあうことが出来るかにかかっていると問いかけております。そして、今以上ロータリーと個人的にかかわり、奉仕プロジェクトと会員増強に参加する事を求めています。あらためて、ふるさと留萌でロータリーの心を分かちあう仲間の一員であることに感謝したいと思います。正にそのことを感じるのがロータリーの本質であると言うのなら、やっと入口に辿り着いたのかと言うところです。

ここで、この一年を私的に表現し、感謝の思いをお話いたします。ロータリーは奉仕の真実を知り、学ぶところ…それは真実としても、人生悩めるロータリアンの一人としては、少々難解であります。その私にとって勉強とは言え一年間舞台を与えてくれた、我がクラブに感謝感激です。大根役者である私を優しく包んでく

れる我がクラブ会員の寛容と忍耐は、正にロータリアン精神そのものです。

私もこの一年は、この舞台で演じることが精一杯、楽しさも精一杯でした。とは言え、我がクラブの舞台でそんな事を勉強させていただいた上に、今回は私がクラブ会長という事で主役を演じさせていただきました。興行主が留萌クラブ。温かい仲間が大勢いました。舞台では役者が侃々諤々口角泡を飛ばし、所詮人生は人と人、義理が廃ればこの世は…等々、突き詰めればやはり役者はロータリアン、何だかんだと言っても最後は会員親睦と奉仕の理想とは…の話になってしまいます。

そんな役者冥利な舞台も、もう間もなく幕が閉まります。修羅場ではそんな初心な話は出来ません。芝居衣装を普段着に戻し、地味に真面目に仕事に励みます。会員皆が人生の達人、頭の中の人生劇場では全員主役を張っています。そんな観客の反応は恐ろしくて聞けません、会長退任後そっと教えていただきます。

最後に幹事始め、理事役員、各委員長、そして、クラブ会員には拙い主役と言いながらもこの一年間、関野政人奉仕劇を支えていただき心からお礼申し上げます。これからは舞台装置、さしずめ下働きに徹したいと思います。そして、次年度、新たに始まる「齋藤清蔵奉仕劇」が満場の喝采を得られん事を願って、退任の挨拶と致します。

一年間ありがとうございました。

